

Daily Report (号外)

～FOMCの結果について～

概要

FRB(米連邦準備制度理事会)は、9月17-18日に開いたFOMC(連邦公開市場委員会)で、フェデラルファンド(FF)金利の誘導目標を0.5%引下げ、4.75-5.00%としました(賛成11名、反対1名)。なお、今回の採決を巡っては、ボウマン理事が0.25%の利下げを主張して反対票を投じました。

会合後に発表された声明文では、雇用に関して、前回の「雇用の伸びは緩やか」から「雇用は鈍化」との表現に下方修正したほか、FOMCが重視する目標について、前回のインフレ目標のみに言及した文章に「雇用の最大化」との文言を追加しました。インフレ状況については「持続的に2%に向かいつつあることに自信を深めており」という表現を追加し、「雇用とインフレの目標達成に対するリスクはほぼ均衡している」と判断しました。

FOMC参加者の経済見通し(中央値ベース)は6月以来の発表となり、2024-2026年の失業率見通しが上方修正され、2024-2025年の物価見通し(PCEデフレーターとコアPCEデフレーター)が下方修正されました。また、FF金利予測(ドットチャート)については、2024年末は4.4%(前回5.1%)、2025年末は3.4%(前回4.1%)に下方修正され、長期見通しは2.9%(前回2.8%)に上方修正されました。

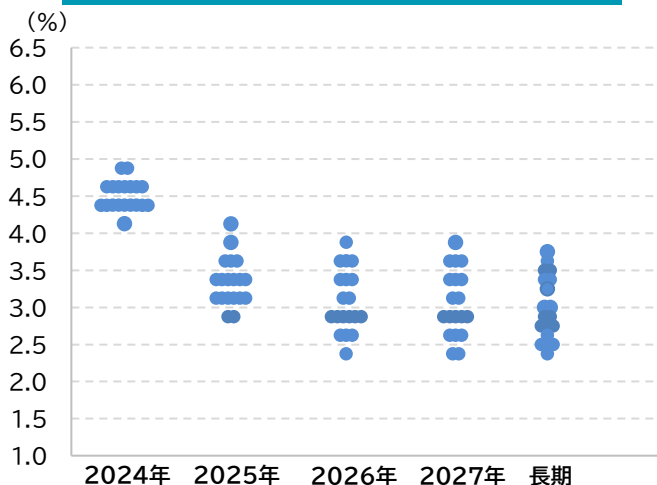
パウエルFRB議長は会合後の記者会見で、7月のPCEデフレーターが前年同月比で2.5%に低下したことなどを例に挙げ、インフレ率がターゲットの2%に近づいていることを示すとともに、景気減速への対応が後手とならないことを示唆し、0.5%の利下げの正当性を説明しました。一方で、0.5%の利下げが今後も続くと考えるべきではないと警告し、データ次第との姿勢を示しました。

図表1 FOMC参加者の経済見通し
(中央値ベース)

	2024年	2025年	2026年	2027年	長期見通し
GDP成長率	2.0%	2.0%	2.0%	2.0%	1.8%
(前回6月)	2.1%	2.0%	2.0%		1.8%
失業率	4.4%	4.4%	4.3%	4.2%	4.2%
(前回6月)	4.0%	4.2%	4.1%		4.2%
PCEデフレーター	2.3%	2.1%	2.0%	2.0%	2.0%
(前回6月)	2.6%	2.3%	2.0%		2.0%
コアPCEデフレーター	2.6%	2.2%	2.0%	2.0%	
(前回6月)	2.8%	2.3%	2.0%		
FFレート(中央値)	4.4%	3.4%	2.9%	2.9%	2.9%
(前回6月)	5.1%	4.1%	3.1%		2.8%

出所:FRB

図表2 FOMC参加者のFF金利予測
(ドットチャート)



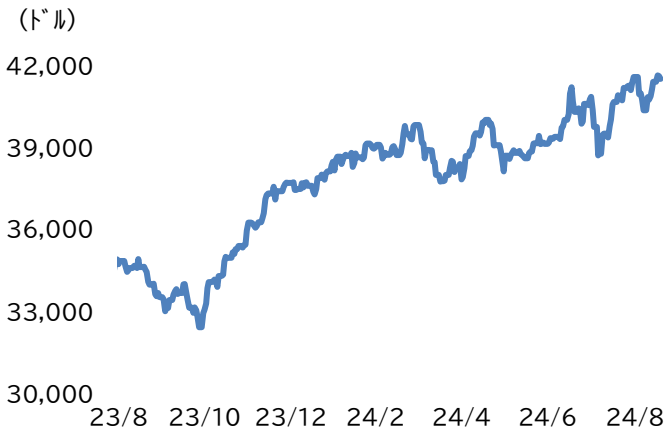
出所:FRBより弊社作成

市場の反応

米国株式市場は、FOMCで利下げが決定した後に乱高下しました。NYダウは前日比103.08ドル安の41,503.10ドルで終え、米国10年国債利回りは前日より0.06%高い3.70%まで上昇しました。

外国為替市場では、ドル円は一時140円台まで円高が進行しましたが、その後142円近辺で推移しました。

NYダウの推移



米10年国債利回りの推移



(期間)2023/8/31~2024/9/18、(出所)Bloomberg

評価及び今後の見通し

市場では今回のFOMCにて利下げが予想されていたものの、今回示された0.5%の利下げ幅は市場の期待を上回りました。

利下げ幅自体は金融緩和に積極的なハト派でしたが、ドットチャートやパウエルFRB議長の記者会見を踏まえると、バランスが取れた金融緩和策だとみています。

ドットチャートの中央値は、年内に追加で0.5%の利下げが実施される可能性を示唆したものの、2025年以降のドットチャートの中央値が事前の市場予想よりも高く、引締め寄りの金融環境を維持することを示しています。

また、パウエルFRB議長の記者会見では、今後の利下げペースはデータ次第であり0.5%の利下げが続くとは限らないことが示され、市場の過度な利下げ期待をけん制しました。

(ご参考)今後の主要イベント

日程	イベント
9/19-20	日銀金融政策決定会合
10/17	ECB理事会
10/30~31	日銀金融政策決定会合
11/6~7	FOMC

出所: Bloomberg